



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

■ 第6回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 熊本

平成26年9月20日に、熊本大学を会場として、「第6回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 熊本」が開催されました。

本シンポジウムは、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」採択を受けた九州圏内国公立大学10大学の男女共同参画に関わる理事・副学長が一堂に会し、各大学の取組や課題、今後の目標等を語り合う場となっており、平成20年度から毎年開催されているものです。

第1部は、当番校である熊本大学学長谷口功氏の挨拶に始まり、熊本県ならびに文部科学省の来賓挨拶、そして、日本アイ・ビー・エム株式会社橋本孝之会長の基調講演へと続きました。日本IBMでは、米国等の海外では既にスタンダードとなっている制度を日本版にアレンジして、ダイバーシティ推進に取り組んでいます。徹底した“トップダウンによる改革”と“スピード感”で、機会均等を保ちながらも、将来性のある者に対して、能力を引き出し、一人一人がプロフェッショナルであるべきという個々の社員の意識醸成を図り、社内における各種支援体制を充実させることで、これからもグローバル企業として生き抜こうとする姿勢は、非常に参考となる内容でした。今後は、そうしたノウハウをどのように適用・適応させていくかが、大学における女性研究者支援やダイバーシティ推進の鍵となるものと思われます。

第2部は、潮谷義子前熊本県知事を司会進行役にパネルディスカッション形式で進められ、各大学の課題や現状・取り組み等意見交換を行いました。また、会場からも多数の質問が出され、活発な討論が行われました。本学からパネリストとして登壇した島理事が、「様々な取り組みを実施して目標達成に向け努力はしてきたが、意識醸成が課題だ。」と発表すると、他大学からも同様の意見が出され、最大の課題は、構成員一人一人の意識改革が重要なことであると改めて認識したシンポジウムとなりました。

さて、次回、平成27年度のシンポジウムは鹿児島大学が当番校です。充実した内容のシンポジウムが開催出来るよう努めるとともに皆様にも開催成功に向けてご協力ならびにご参加をお願いします。



パネルディスカッションの様子

■ キャリア形成セミナー開催

平成26年7月31日、8月5日の2日間、株式会社新日本科学バイオ研究部免疫・ウイルス研究室室長の内山朝子氏を講師に迎え、「フレキシブルなキャリアパス形成」と題したセミナーを郡元・桜ヶ丘の2キャンパスで開催しました。内山氏は、米国への留学に至る経緯や米国での研究者時代の経験等をユーモアを交えて語り、会場が笑い声で包まれるなど、和やかなひと時となりました。

研究者を目指す大学院生にとっては、就職や将来研究者として継続していけるかなどの不安が付きまといますが、センターでは、本セミナー等による様々なロールモデルを提供することにより、若手研究者の育成支援を継続していきたいと考えています。



キャリアパスについて講演する内山氏

■ スキルアップセミナー開催

平成26年9月18、19日の2日間、リンクサイエンス社代表川上輪子氏を講師に迎え、「英語論文・英語プレゼンテーションワークショップ」を郡元、桜ヶ丘の2キャンパスで開催しました。本企画は、大学院生や若手研究者等を対象に次世代育成支援の一環として、英語論文作成や英語プレゼンテーションのスキルアップを行い、海外での論文発表や論文掲載増加を目的に開催しているもので、大学院生、若手研究者、学生指導を担う教員ら延べ33名が参加しました。今回は、論文作成や英語プレゼンテーションの経験の比較的浅い者を対象としましたが、参加者からは非常に好評だったため、センターとしては今後も重要な取り組みとして位置づけ、継続して開催していく予定です。



効果的な英語論文作成について説明する川上氏

■ 「museカフェ」～メンターとの交流会開催(農学部、教育学部)

平成26年7月17日に農学部所属のメンターと16名の学生(農学部・農学研究科、理工学研究科)とで交流会を開催しました。参加した学部生からは、「大学院進学における研究室を選ぶ際の参考になった」や、親との価値観の違いに悩む女子大学院生からは「自分らしく生きてきた先生方の話は参考になった」などの感想がありました。また、今回の交流会には、工学部からも参加があり、ライフイベントとキャリア継続等について、今後メンター制度を利用したいとの声も出されました。



農学部

平成26年8月6日には、教育学部で、交流会を開催しました。今回は職員が相談者として出席し、指導的立場としての対人関係の築き方やコミュニケーションの取り方や親としての中学生への接し方などの悩みが出され、メンターからは、「自分が相手に関心があることを伝える言動」や「アサーティブな(アイ)メッセージの活用」など教育現場での経験談を交えながらのアドバイスが出されました。学生だけではなく、職員への相談・助言にもメンター制度が機能的に活用出来る事が明らかとなった良い機会となりました。



教育学部

鹿大の女性研究者に Close-up!

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介します。

兼城 糸絵 准教授 (法文学部人文学科)

Profile 2008年3月 琉球大学大学院人文社会科学研究所修士課程修了
2013年3月 東北大学大学院環境科学研究科博士後期3年課程
単位取得退学
2013年4月 現職

— 研究テーマは何ですか？

現在中国人移民とその故郷の関係について文化人類学的な角度から研究しています。特に、なぜ人は移動するのか、そして人の移動が社会に与える影響とは何かという点について強い関心を抱いています。また、近年は東日本大震災の津波被災地にて災害と民俗文化に関する研究もしています。

— 研究者を目指した理由を教えてください。

私の場合、そもそも最初から研究者になろうと決めていた訳ではありませんでした。でも、修士課程在籍中に中国へ語学留学した際に、似ているようで大きく異なる中国社会のようすを目の当たりにし強いカルチャーショックを受けました。この留学をきっかけに中国社会をもっと知りたいと考えるようになり、研究者を目指すようになりました。



研究時に欠かせない愛用のフィールドノートとコンパス

— 尊敬する人物とその理由は？

両親。物事に挑戦することの楽しさと大事さを教えてくれたから。

— 日頃のモットー

日々何事も一生懸命に取り組むこと。

— 研究の上で苦労されたことはありますか？

文化人類学の大きな特徴は、長期にわたって調査地の人々と生活をともにしながら、人々の生活様式を観察し、理解していくという調査(フィールドワーク)を行うことです。私は中国福建省のある農村にて一年ほど一人で住みこみ調査をしていましたが、調査を始めて1~2カ月は、ホームステイ先の家族が話す方言や習慣の差に戸惑うことが多々ありました。時間が経つと徐々に戸惑いも無くなっていきましたが、未だに方言には苦労しています。



神を勧請する儀礼の調査にて

— これから研究者を目指そうとする方へのメッセージ

研究者にとって大事なことは、好奇心を持ち続けることと、よく考えよく動くことだと思います。座学も必要ですが、自分の知らない世界にも積極的に出かけていき、色々な人とコミュニケーションを取るようになってみてください。そこで得られる新たな出会いや経験があなたの生活をきつと豊かにしてくれるはずです。

■ オープンキャンパス企画 ~“ガールズ☆Talk”~ 開催

平成26年8月2日(土)に、オープンキャンパス企画として、“ガールズ☆Talk”を開催しました。本企画は、女子中高生の進路選択支援の一環として、本学の女子大学院生15名(7研究科)の多様な研究発表を通じ、キャンパスライフや研究の面白さを伝え、将来において一人でも多く研究職に興味を持ってもらうことを目的に毎年開催しているもので、女子大学院生との交流の場ともなっています。今年は、台風接近に伴い、開催が危ぶまれましたが、予定通り開催されました。参加者の中には、本企画を通して、「文系志望だったが、理系も視野に入れることが出来た」との声や、大学院生においては「他の分野の大学院生と交流を持つことにより良い刺激になった」との声がありました。



大学院生の説明に聞き入る参加者

■ 医学部・歯学部附属病院における男女共同参画推進の取組

「専門職にある女性教員のキャリアアップ支援」

医学部・歯学部附属病院では、従来、看護師や薬剤師など専門職に従事する女性の比率が高く、育児支援やキャリアアップ支援の必要性は早くから認識されていました。近年では医学部医学科学生も35~50%が女性であり、今後更に女性専門職の数は増加していくことが予想されています。これまで、看護部では既に色々な取り組みが行われていましたが、平成19年からは病院主導で育児中の女性医師を対象として短時間雇用制度が導入され、『多様な勤務形態についての申し合わせ』が制定されました。これにより各々のライフステージに合わせた勤務形態の選択が可能になり、育児休業後の復職が円滑になってきました。また、業務内容の効率化も図られてきており、研究時間の確保に寄与しています。平成20年に開設された院内保育園『さくらっ子保育園』では、24時間保育、病後児保



医学部・歯学部附属病院
女性医師等支援センター
増田 美奈 特例講師

育及び看護師の常時配置等を実施しており、女性職員や女性教員がキャリアを継続しやすいような配慮がなされています。また、復職支援や各種相談に対応するべく「女性医師等支援センター」も設立されており、関係機関と連携しながら支援を行っています。

平成26年10月1日現在、附属病院の教員数は特例教員や特任教員を含めると172名ですが、そのうち32名(18.6%)が女性であり、先の「多様な勤務形態」の導入等により、女性職員が復職しやすい環境を整えてきたことが徐々に成果として実を結んできています。



女性医師等支援センターミーティングの様子

今後は更に支援の充実を図り、就業環境の整備や研究支援、各種情報の提供も積極的に行っていく予定です。

■ 女性研究者在籍状況(H26/10/1現在)

平成26年10月1日現在 人数(比率)[事業前からの増加率]	
全体	193人(16.7%)[3.0%]:18人
専任教員	156人(15.0%)[3.0%]:7人
自然科学系分野	85人(11.5%)[3.5%]:4人
理工農水分野	22人(6.1%)[3.7%]:2人

※右端の数字は、H26.4.1~10.1(6か月)の増加数

Information (取組状況)

<今後の予定>

- ◆9月21日~1月30日 共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」開講
介護セミナー開催(計5セミナー)
- ◆10月21日~11月25日 出前授業:鹿児島県立末吉・曾於高等学校「自分のライフプランニングをしよう~仕事も生活も充実した人生を送るために」
- ◆11月27日 鹿児島県内大学等男女共同参画連携会議
- ◆12月10日 男女共同参画セミナー「生きる。多様な性のあり方」
- ◆平成27年2月13日